

熊本の学び推進プランの学校化 ステップ1

今までの私たちの学びを生かして“学校化”をしてきたとは言え、まだ漠然とした中で研究が進むことも危惧されます。そこで、先生方と一緒に「熊本の学び推進プラン」(以下「プラン」)について考えていきたいと思えます。

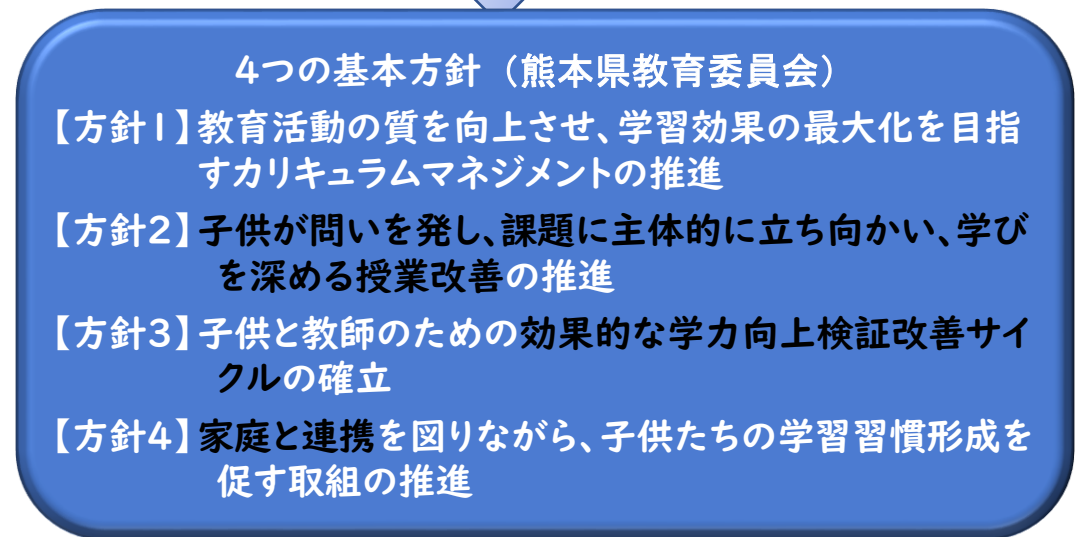
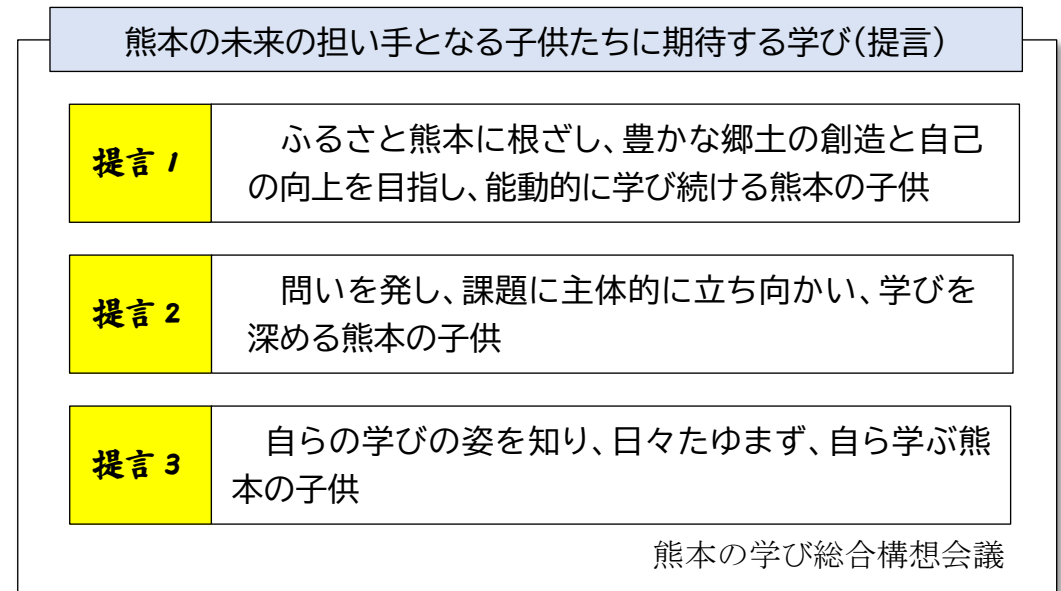
本プランは、平成31年4月に「熊本の学び」総合構想会議からの提言を受け、県教育委員会が策定する義務教育段階における学力向上における計画です。

※ 提言は、本県の教育の課題を洗い出したもので、そこに着目することは大切です。

「提言」では、“熊本のすべての子供たちが、「学ぶ意味」を問いながら、「能動的に学び続ける力」を身に付ける”という理念のもと、これまで義務教育段階における「確かな学力」の育成に向けた取組を、子供たちの学びの視点から捉え直し、以下のとおり熊本の未来の担い手となる子供たちに期待する3つの姿が提言されました。

次ページから提言をもとにプランの木上小学校化を示します。各提言に記述された内容を分類し、キーワード(ポイント)を吹きだして示しています。

今後、新学習指導要領に係る国の動きが出たら、随時概要をお知らせします。(2026年夏:最終答申の予定。これに基づき、2030年度からの実施に向けた準備が進められる)





Point
郷土を知るための
ふるさと学

これからの学校教育は、地域のよさに気付き、地域の課題を友達と一緒に解決しようとする過程を体感することを通して、熊本にしかできない学校教育の質の向上を図り、熊本に根ざす人づくりを実現することができる。

豊かな郷土の
創造のために



Point
本物体験や体験活動の充実

学校は、特別に支援を要する子供たちへのきめ細かな支援やSNS等の急激な普及に際し、様々な人間関係のトラブル等への対処が求められるなど厳しい現状にある。

子供たちを取り巻く家庭や地域の環境等の変化も著しく、現在、バーチャル・リアリティ(仮想現実)の世界が加速度的に広がっている。

木上に根ざすために

提言1

ふるさと木上に根ざし、豊かな郷土の創造と自己の向上を目指し、能動的に学び続ける木上小の子供

自己(児童)の向上のために



Point 授業では言葉のキャッチボールのルールを確立し
対話的な学びの充実

解決に向けて知識そのものを更新し活用していく時代を迎え、「学ぶこと」は生涯欠かせないものになっている。「非連続的」に変わるこの時代に豊かで幸せな人生を送るためには、生涯にわたって能動的に学び続けることが不可欠である。

能動的に学び
続けるために

急速なスピードで変化する社会では、知識の量だけではなく、答えのない問いに対して、正面から向き合い判断し、一つの課題に対して、多くの情報を吟味して、周囲の人たちと協働しながら解決策を探す力が求められる。

Point グランドデザインを五者で共有するためにHP等でタイムリーな話題を
積極的に情報発信



これからの学校は、今まで以上に、課題を家庭や地域とともに共有し、より開かれた学校経営をそれぞれの地域の実態や強みを生かしながら進めていかなければならない。



Point
探究的な学びのための
総合的な学習の時間

問いを
発するために

Point
主体的な学びの基盤は
学ぶ意欲の向上と基礎・基本の徹底

このような学びを実現するためには、各教科等における見方・考え方を総合的に働かせ、よりよく課題を解決し、自己の生き方を考える「総合的な学習の時間」が今後一層重要になる。

小学校の低・中学年においては、学ぶ意欲を高めるとともに、基礎的・基本的な知識及び技能を確実に身に付けさせ、本県の「主体的な学び」の基盤づくりを進めていく必要がある。



これからの時代を担う子供たちには、出来合いの答えのない課題に対応する力が求められます。実社会や実生活の中から、自分なりの問いを立て、自分なりの方法で、自分なりの答え（納得解・最適解）にたどり着く「探究的な学び」が求められている。

Point
「学びの主体」として育てるため質の高い指導として
深い児童理解と質の高い教材研究

提言 2

問いを発し、課題に主体的に立ち向かい、学びを深める木上小の子供

課題に主体的に
立ち向かうために

学びを深める
ために



Point
個々の多様な学びを生かして子供たちの側に立ち
教える側から子供たちの学びに視点を転換

学習指導要領に示されている「主体的・対話的で深い学び」の視点からの授業改善をより一層推進するためには、今一度、基礎的・基本的な知識及び技能をどの子供にも確実に身に付けさせることが第一義的であることを再確認する必要がある。

これまで取り組んできた熊本型授業は、「授業」の中で教師の側、教える側の視点から授業の在り方を徹底した指導、学習の在り方を能動型学習という形で示してきた。

Point 全ての児童に応じた手立てを準備し
個に応じた指導の共通実践

Point 授業で振り返り・学習カードの活用を充実させ
子供の自己評価の能力の向上



すでに十分理解が深まった子供たちに対しては、より意欲的に学ぶための課題を用意するなどの個に応じた指導や支援を講じる。

授業が分からないという悩みを抱えた子供たちへの支援にあっては、自分にふさわしい学び方や学習方法を身に付けさせ、主体的に学習を進められるようにする。

「学び」は、子供たち一人一人の中にある。子供たちの状況は「多様化」の一途をたどっており、一人一人に適切な支援をすることが求められている。

Point 学力調査だけでなく、日々のワークテスト等でも、担任から助言を行い、何ができて何ができないかを知らせるなど、教師が具体的に知らせることを通して

自らの学びの状況を的確に把握

自らの学びの姿を知る

提言3

自らの学びの姿を知り、日々たゆまず、自ら学ぶ木上小の子供

自ら学習計画を立てることの習慣化

子供の取組状況の把握と適切な助言

保護者へ宿題の方法を具体的に依頼

子供同士で認め合う場面や時間設定

教師や保護者が子供の取組を「認め、ほめ、励まし、伸ばす」姿勢で見取る



日々たゆまず
自ら学ぶ

学校と家庭は、連携を密に図りながら、子供の発達段階に応じた学習計画の立て方や学び方を促すなど家庭学習の指導を充実する必要がある。

生涯学習を見据えた主体的な学習者の育成の視点や学力保障の視点からも、小学校の早い段階で学習習慣を確立することは極めて重要である。